

特集

伝わる英語が書ける！

プレイン

ランゲージ

入門



「英語のリスニングやリーディングならなんとかこなせるけど、ライティングはいまだに苦手…」 「英語で文章を書くとうも長ったらしくなってしまう…」 — そんな方は多いのではないのでしょうか。本特集では、簡潔で伝わりやすい英語、「プレインランゲージ」を書くための秘訣をご紹介します。ライティングで伸び悩んでいる方はぜひご一読ください。

執筆：浅井満知子（株式会社エイアンドピープル代表取締役）

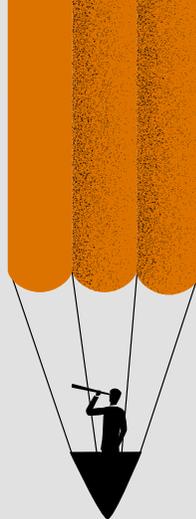
画像：Jozef Micic / Shutterstock.com (p.35、p.36、p.38、p.41、p.45、p.46)



プレインランゲージとは

プレインランゲージは「速く」「効率的に」「理解しやすい」簡潔で明確な英語の伝達法です。読者や聞き手、情報の受け手に効果的に情報を伝達し、的確な判断を下してもらい、次のアクションへつなげてもらうために考案されました。誤解を招かないよう「誰が読んでも同じ解釈になる」ことを目的にイギリス政府により開発され、その後アメリカの政府機関、公的機関でそれぞれ改編がなされました。

※2023年に国際標準化機構がプレインランゲージ規格（英語を含む27言語）を正式公開して以降、アメリカ政府やEUではプレインイングリッシュを含む27言語をプレインランゲージと総称しています。本特集でもプレインランゲージと記します。



明確でスピーディーなコミュニケーションツール

グローバル化とダイバーシティが進む現在、公正、公平な情報発信が求められており、それを実現するためのコミュニケーションツールであるプレインランゲージが欧米では浸透しています。

IoT化で、あらゆるものがインターネットにつながり、世界中の人々がアクセスできる環境が整う中、ネットの世界では国境や時差という制約は薄らぎ、その便益を24時間365日、私たちに提供してくれています。

そうした便利な現在、いまなお高い壁があるとしたら、それは言葉の壁ではないでしょうか。各国の異なる言語の壁を少しでも低くするために、思考のプロセスを同じくし、誤解がないよう明確な表現を心がけるべく、

表現のルールを統一しようと、2023年に国際標準化機構がプレインランゲージ規格を正式に公開しました。この規格はアメリカ政府のPlain Writing法に基づく『Federal Plain Language Guidelines』をベースに、加盟各国の言語の専門家により策定されました。

重要な情報が他の多くの情報に埋もれてしまわないよう、容易に見つけてもらうためのアクセシビリティや、興味を引く見出し、一回読んで理解ができる明確さ、さらには離脱（読むことを止める、拒否する）されないための知恵と工夫が欧米では駆使されています。プレインランゲージは、それらの効果的な情報発信の工夫を体系的にまとめたコミュニケーション術です。

プレインランゲージの4つの定義

① visually inviting

まず、読んでみようと思わせるように

② logically organized

論理的に情報整理されている

③ understandable on the first reading

一読して理解できる

④ in plain language

親しみやすい一般的な言葉で表現されている

プレインランゲージの発祥と広がり

1954年に、プレインランゲージの指南書がイギリス政府の財務省高官により考案されました。官僚は専門用語を使うことが多く、婉曲的で冗長な表現を好む傾向に

あり、省内でもミスコミュニケーションが生じ、業務効率の妨げとなる事象が多発したためです。しかし当時は、官僚からの強い反発もあり、実用化には至りませんでした